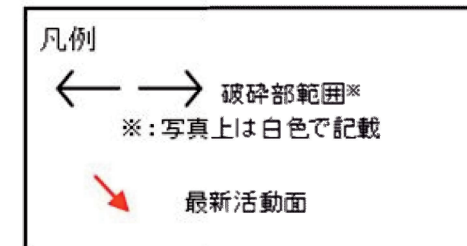


H24-E-2 深度13.23~15.82m 最新活動面の深度 (No.2) を変更

- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度について性状一覧表のコア写真上に赤矢印、薄片観察結果には深度「13.42m」と記載していたが、以下のことから最新活動面の深度を13.42mから13.46mに変更する。
- コアを再観察し、細粒部を伴い最も直線的であることから、深度13.46mが最新活動面であることを確認した。
- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度を「13.42m」としていたが、従前の作業プロセスでは今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため、「13.42m」としていた根拠がトレースできなかった。

コア写真



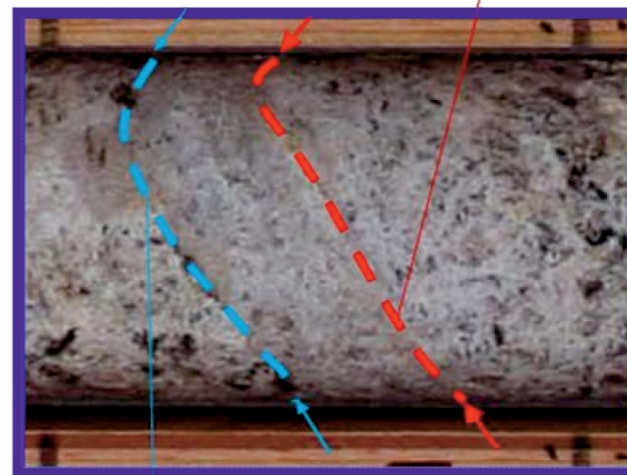
深度13.46mの面(赤矢印)は直線的で細粒部が連続的に一定の幅で認められる

※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

最新活動面*の記載



青枠部拡大



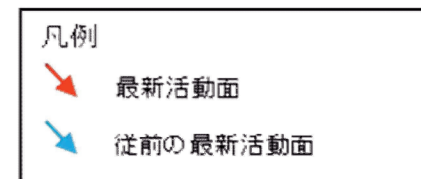
青枠部拡大



深度13.42mの面(水色矢印)は直線的であるが、細粒部が一部不明瞭になっている

該当箇所のコア観察カード
 13.42~13.46m: Hc-2 (主せん断面: 13.42m)
 上端30° 下端30°で、両岩とも直線的でセ-70に連続。
 φ1~2mm 角礫と若干の粘土粒が5~10mm程度の割合
 と含んで、中-固結した粘土質、色調は、黄褐色(2.5YR 7/1)
 である。厚さは30mm

面の直線性・連続性の記載

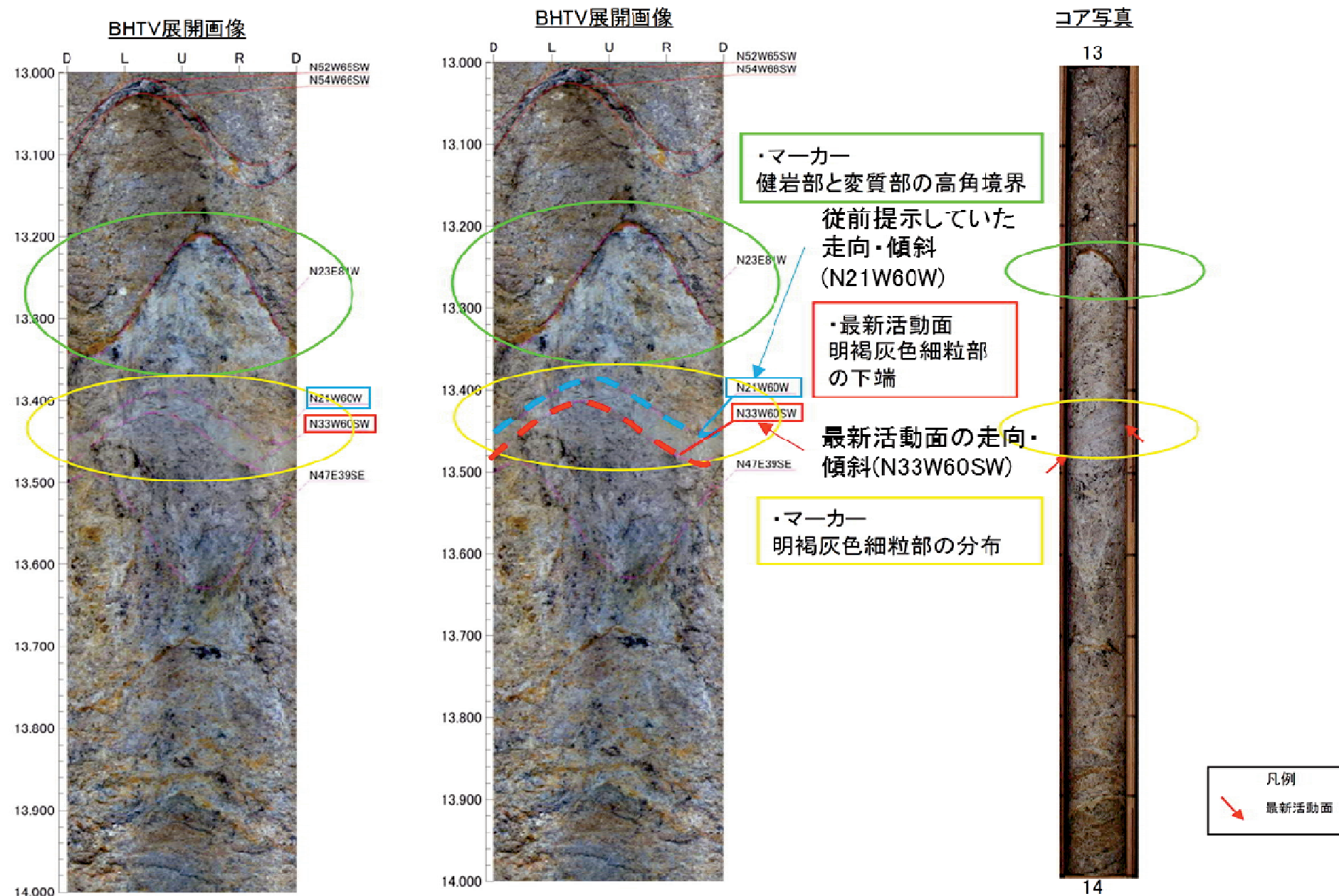


H24-E-2 深度13.23~15.82m 最新活動面の深度 (No.2) の変更に伴い、走向・傾斜 (No.3) を変更

- 最新活動面の変更に伴い、深度13.46mのせん断面における走向・傾斜であるN33W60SW (下図のBHTV展開画像の赤矢印) に変更となる。(副次的変更)
- 従前提示していたデータは、データ取得時のBHTV画像において13.42mに相当する不連続面のトレース線を本破碎部の走向・傾斜としたと推定される (下図のBHTV展開画像の水色矢印)。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-E-2 深度13.23~15.82m)

・ H24-E-2 深度13.23~15.82mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN33° W60° SWである。



H24-E-2 深度13.23~15.82m 最新活動面の走向・傾斜 (No.3) の変更に伴い、条線方向 (No.4) を変更

- H24-E-2孔 深度13.46mのK断層の断層面の走向・傾斜がN33°W60°SWであり、条線観察は下盤側から実施している。

コア写真

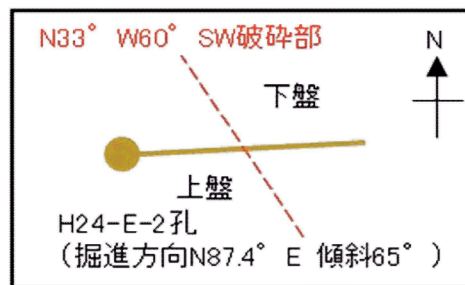
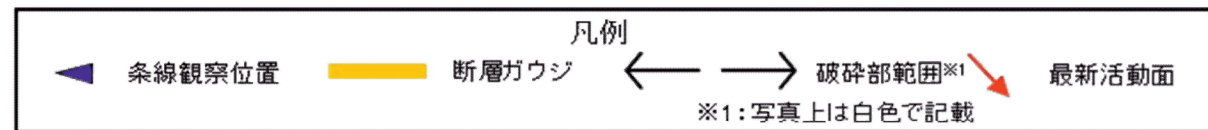
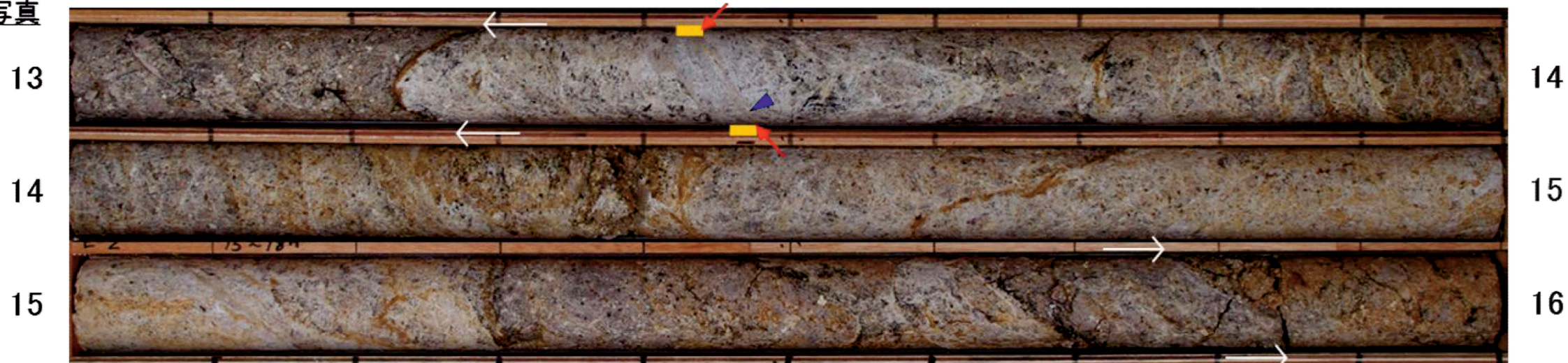


図1 H24-E-2孔位置平面図(模式図)

- ボーリングは掘進方向N87.4° E, 傾斜65° で掘削している。
- 破砕部の走向・傾斜はN33° W60° SWであり、ボーリングと破砕部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破砕部は南西傾斜であることから、南西側が上盤、北東側が下盤となる。

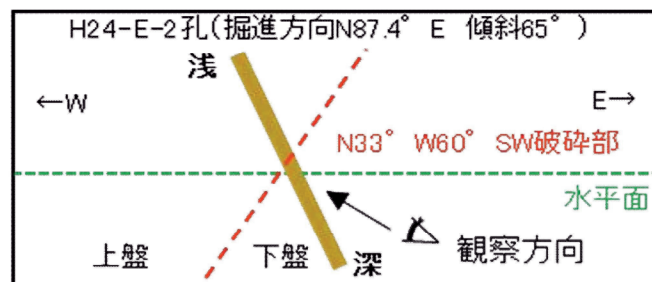
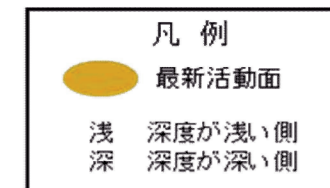
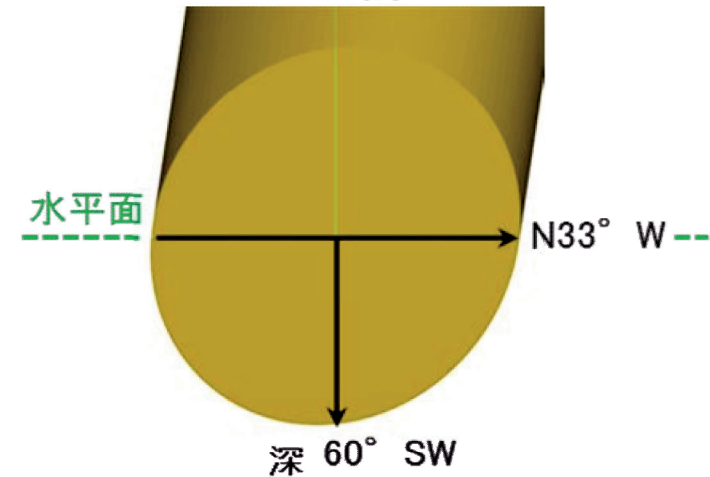


図2 H24-E-2孔を通る断面図(模式図)

- ボーリング(掘進方向N87.4° E, 傾斜65°)と破砕部(走向・傾斜N33° W60° SW)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が上盤、深い側が下盤となる。

※下盤側から観察 浅



※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図